



日本文学からみた奈良の魅力を語る 「日本文学史の中の奈良」講演会の開催

追手門学院大学(大阪府茨木市、学長：川原俊明)は、卒業生団体の大学校友会支部が奈良に設立されるのを記念し、6月24日、奈良にちなんだ講演会を開催します。

「日本文学史の中の奈良」をテーマに、日本の近現代文学が専門の真銅正宏副学長・国際教養学部教授が講師を務め、昭和初期の10年間を奈良市で過ごした白樺派の作家、志賀直哉の奈良に関する記述、昭和初期の文芸評論家である亀井勝一郎が大和路を旅し、薬師寺などの名刹を描写した記述、司馬遼太郎が『街道をゆく』で訪ねた竹ノ内街道周辺の里の風景や生活文化に関する記述などから奈良の新たな側面を掘り起こします。

また、本学は本年4月に奈良県橿原市と連携協定を結び、外国人観光客の誘致をキーワードに観光、教育、歴史、文化の分野において協力をスタートさせました。橿原市は万葉集をはじめ様々な文学作品の舞台でもあり、作品の舞台となった地域の魅力にも触れる予定です。

歴史・文化の宝庫である奈良の魅力を文学の視点から捉え直すまたとない講演会です。ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

【ポイント】

- 文学作品から奈良の文化・風土に関する記述を取り出し奈良の新たな側面を捉え直す。
- 寺社仏閣の豊富な古都・奈良は様々な文学作品の舞台。
- 追手門学院大学は本年4月に橿原市と連携協定を締結。文化遺産を生かした連携に着手。

記

行事名：記念講演会「日本文学史の中の奈良」

日時：2017年6月24日(土) 16時から40分程度

会場：ホテル日航奈良 飛天(奈良市三条本町8-1)

講師：真銅 正宏(追手門学院大学副学長・国際教養学部教授)

以上

この資料の配付先：奈良市政記者クラブ、北摂記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 谷ノ内・足立